

(様式第2号)

| | |
|-----------------|-----|
| 研究No. (記載不要) | — — |
|-----------------|-----|

平成 19 年度配分 研究成果発表報告書(実績)

| | | | | | |
|----------------|------------------------|------|----|-------|--|
| 研究名 | 「2020年の街とSUACのあり方」調査研究 | | | | |
| 配分を受けた特別研究費 | 特別研究費 1300 千円 | | | | |
| 研究者氏名 (代表者) | 学部名 | 学科名 | 職 | 氏名 | 共同研究者 |
| | デザイン学部 | 空間造形 | 教授 | 川口 宗敏 | 他 9 名 |
| 発表の方法 | 1 紀要 名称: | | | 号数 | 第 号 (頁~ 頁) (年 月発行) |
| | 2 学会等での発表 学会等名: | | | 発表日 | 平成 年 月 日 |
| | 3 その他 発表の方法: 学内研究会 | | | 発表日 | 平成 19 年 11 月 22 日 (第 1 回研究会) 平成 19 年 12 月 13 日 (第 2 回研究会) 平成 20 年 1 月 10 日 (第 3 回研究会) 平成 20 年 2 月 18 日 (第 4 回研究会) 平成 20 年 3 月 25 日 (第 5 回研究会) |

学会等での発表及びその他の場合は、学会報等発表を証する資料を添付すること。

配分を受けた翌年度の 3 月末までに提出

| | | | | | |
|---|---|--|---|---------|-----|
| 日 時 | 平成19年11月22日(木) 17:00~19:00 | | 出席者 | 研究会メンバー | 10名 |
| 会 場 | 静岡文化芸術大学 306 会議室 | | | アドバイザー | 3名 |
| 次 第 | | | 備 考 | | |
| 1 研究会趣旨説明 2 研究会概要説明 3 自由意見交換 4 その他 司会：川口（研究主査） | | | 配布資料 ① 次第 ② 「2020年のSUAC(仮)」調査研究活動計画 ③ 浜松情報第425号学長インタビューコピー | | |
| 1 研究会趣旨説明（杉田副理事長） 研究会主旨は配付資料のとおり。大学発足10周年として、記念的な事を行いたい。川勝学長の、馬込川を活用しての親水公園づくりや都市景観などまちづくりを通じて、地域に貢献できないかという意向がある。 | | | | | |
| 2 研究会概要説明（上野副学長） 配布資料の「調査研究の主要テーマ(仮)」で関係性のある先生を人選した。研究予算として今年度は当面のものを用意し、来年度以降は研究計画に沿って予算をつける。第3期（2009年度）の活動は、今後の経過をみてスケジュール等を検討する。チームリーダーは川口先生にお願いする。 | | | | | |
| 3 自由意見交換会（敬称略） | | | | | |
| 川口 | （大学の将来構想を検討するのか、との質問に対し）本研究会では、大学の地域におけるあり方について、まちづくりを中心に考えてもらいたい。 | | | | |
| 上野 | 検討内容は、大学の地域性、社会性という観点から、地域社会へのあり方について限定したい。 | | | | |
| 杉田 | 浜松市の副市長に確認したところ、大学のある東街区周辺には市は特別の構想を持っていないということなので、自由に考えてもらいたい。 | | | | |
| 立入 | 実現可能性はどの程度考慮するか？ | | | | |
| 川口 | どちらも考慮する。長期的ビジョンがあってもよい。今年度はシナリオがないので、次年度に向けての考えを自由に出して欲しい。学長はボローニャ大学を例に出した。 | | | | |
| 花澤 | ボローニャ、オクスフォード、金沢など、大学と地域がよい関係をつくることで都市が発達した。大学都市として有名な事例の情報が欲しい。金沢は21世紀美術館が地域の文化を振興する役割を果たしている。 | | | | |
| 杉田 | 海外視察も視野に入れたい。 | | | | |
| 森 | 成果物として何をイメージするか？ハードか、ソフトか？ | | | | |
| 川口 | 馬込川のような現実的なものでもよい。（学長の意向を全員で共有できるように）一度学長を会議に呼んでほしい。 | | | | |
| 立入 | 案を作ることはできるが、まちづくりを実行するのは大学ではない。 | | | | |
| 川口 | 大学でできるもの、行政がやるもの、市民との協働など、今年度は自由に考えたい。 | | | | |
| 上野 | 超長期、長期、短期、大学主体、コラボなど色々なレベルがある。まず可能性を出し合ってレベル分けしていく。（留学生会館の建設など） | | | | |

| | |
|----|---|
| 根本 | <p>市がシンクタンク（機能のようなもの）を作ることが決まった。まだ漠としているが、市から提案を求められている。政策系大学院生の活躍の場としても考えられる。調査研究のテーマとして個人的に以下3点の案がある。</p> <p>① 外国人が活躍できるもの。レベルの高い留学生が専門性を身につけて、留学先の国で研究者となるなど、外国人を戦略的に活用する。外国人が希望の星となる（場を用意する）。</p> <p>② SUAC 出版など、地域の人が情報発信するプラットフォームとなる。</p> <p>③ 世界じゅうの博物館のパンフ（ブローシェ）を集め、ウェブ上で情報発信する。本学学生が翻訳をする。</p> |
| 寒竹 | <p>大学のまちは軸を持っている。SUACは近代建築でコア的空間が外に広がるような構成をしていない。神社には緑がある。小学校はまちで一番いい場所にある。本学は面積が少ないし、そのような場所にもないので、新しいアイデアが必要である。例えば留学生会館は大学から遠くてもよいので、囲碁の布石のようにまちを捉えたい。出版業務立ち上げは、必要である。“核”というと昔のスタイルになるので、新しい言葉がほしい。</p> |
| 立入 | <p>本学のギャラリーや講堂に人を呼びたい。定例的に人が自ずと来る、愛される大学にならなくてはいけない。循環バスをもっと遅くまで走らせ、イベントを積極的に発信し、人が来やすい環境にしたい。</p> |
| 寒竹 | <p>現在、大学には外から人が直接入れない。外側の空き空間に手を入れ、私たちの色をつけたい。</p> |
| 根本 | <p>ホールにパイプオルガンを置くなど。</p> |
| 上野 | <p>パイプオルガンを弾く卒業生がいる。</p> |
| 森 | <p>カルフォルニア大学が、持っている資源（卒業生）を活用して、環境問題など世界規模の大学プロジェクトを立ち上げようとしている。世界的に大学間競争をしていると感じた。SUACはイスラム邸宅で、中庭に求心力がある。中にいると暖かいが、外は入りにくい。ボローニャ大学はまち＝大学。商店街の上のアパートに人が住んでいる。一体化している。ハード面で学生を街中に住ませること。</p> |
| 川口 | <p>（オクスフォードなど）まちの中に大学が散らばっており、どこに大学があるかわからない。東街区やアクトタワーの空室に大学院を作り分散させては。</p> |
| 花澤 | <p>ネット上の情報発信を見える形にできるよう、マップがあるとよい。学生のアルバイトを、居酒屋などではなく、文化的な方向に持っていきたい。</p> |
| 宮崎 | <p>浜松のまちはきれいになっているが、淋しい。本学の図書館の利用率が高いのは、周りに何もなかったため。学生・職員も身近に繋がるものがほしい。本学の講堂も、民業圧迫といわれるとPRしにくい、予算ベースにのらない催しなどに活用したい。</p> |
| 山本 | <p>昔、市の都市計画課にいたことがある。中心市街地の活性化として、大学通りの活用をしたい。</p> |
| 坂田 | <p>浜松の文化を理論立てて研究し、「やらまいか」よりも新しい浜松文化論を展開できるとよい。地域から大学に求められている事ではないか？連続講座をやって参加者を大学に集めることもできる。</p> |
| 富田 | <p>大学が結節点となって市民の流れをつくりたい。浜松の大学ラインナップは新しく、大学資源のプロデュースをしたい。新潟大学など参考になる。</p> |
| 上野 | <p>研究会に学長も入ってもらえるよう、パイプ役をする。</p> |
| 鈴木 | <p>大学を核としたまちづくりをすることを目指すのか？静岡に比べて何故浜松は街中に人が少ないか？テーマを社会貢献にするのか？高校生に愛される大学にするのか…論議をしてもらいたい。</p> |
| 川口 | <p>今回の意見をまとめて、次回の論議を行いたい。</p> |

4 その他

次回研究会：12月13日（木）18:00～ 文芸大306教室

出席者

メンバー：川口教授、根本教授、森教授、寒竹教授、立入講師、花澤講師
宮崎次長、山本（企画室）
富田、坂田（ワーキンググループ）
アドバイザー：杉田副理事長、鈴木常務理事、上野副学長

| | | | |
|----------------------------------|--|----------------------|-------------------------|
| 日時 | 平成19年12月13日(木) 18:00~19:30 | | |
| 会場 | 静岡文化芸術大学 306 会議室 | 出席者 | 研究会メンバー 9名 アドバイザー 1名 |
| 次 第 | | 備 考 | |
| 1 自由意見交換 2 その他 司会：川口（研究主査） | | 配布資料 第1回議事要録（修正版） | |
| 1 自由意見交換会（敬称略） | | | |
| 川口 | 次回会議で、東街区の区画整理や大学の位置づけ、成立過程などを知っている方を浜松市から招いて、お話を聞きたい。学長にも参加いただくよう調整する。 | | |
| 根本 | 当初、市が大学に期待していた事の一つに産業考古博物館の構想があった。 | | |
| 宮崎 | 木村前学長が推進していた。予定地が公園になってしまったが、種田先生にソフトを作る話は継続してもらっている。 | | |
| 花澤 | 西ギャラリーは寂しい。バーチャル展示（ヤマハの家具など）ができればよい。 | | |
| 根本 | 企業名を出しての、冠企画があるかもしれない。 | | |
| 富田 | 静大の高柳健次郎博物館は、地元企業OBの寄付で作った。しかし、敷居が高く、大学内まで人が入りにくい。展示内容も難解である。子どもたちが来られるようにしたい。 | | |
| 根本 | ものづくりについて、ネットワークしてプロモーションし、SUACから発信する。1つ1つが小粒でも、そのアンカーポイント（要）がSUACであれば好ましい。 | | |
| 森 | 本学の特徴は社会人聴講生が多いので、静大に比べ外から人が来る。西ギャラリーは外から見やすいので、非常設展示はありうる。サンフランシスコ空港のコンコースでは、貝殻や子どもの絵などを展示している。 | | |
| 川口 | アムステルダムスキポール空港でも国立美術館の作品を一部展示している。浜松駅のコンコースでもピアノ等を展示している。人が多く通る場所なので効果的だ。 | | |
| 山本、宮崎 | 浜松駅や静岡駅の構内にある大学の看板は、行政に頼んで、目立つ場所に移動させてもらっている。 | | |
| 川口 | 碧風祭がキャンパスから公園やアクト通りに出て行くことも考えられる。 | | |
| 寒竹 | まちの祭りにSUAC（学生）が参加するというのがよい。おみこしを作ってもよい。 | | |
| 根本 | 浜松祭りにSUACが参加し、デザインが上品であれば凧も揚げてもらえるのでは大学前の結婚式場のように、夜間ライトアップしてはどうか？高層棟を電飾する、窓の灯りをつけるなど。 | | |
| 宮崎 | 大学の外側に大学名が出ていない。ある程度大きな目立つ看板をつけることを検討したことがある。 | | |
| 森 | クリスマスツリーを学生に飾ってもらう。 | | |
| 根本 | 宗教行事は規制される可能性もあるが… | | |
| 宮崎 | 学生が冬の螢（イベント）に参加していても、大学が把握していない状況である。 | | |
| 寒竹 | 静岡にのぞみが止まらない。県民が気にとめないのは何故か？ | | |
| 宮崎 | 地元の方は止まらないのが当たり前と思っている。ひかりで満足している。 | | |
| 寒竹 | 静岡（の店）はサービスが悪い。努力しなくても人が通る。 静岡は何を核に文化を作っていくのか？どこの大学に出しても通用するようなアイデアでよいのか？ | | |

| | |
|----|---|
| 根本 | 欧州には、グッケンハイム美術館を誘致し文化都市を目指しているスペインのビルバオがある。UAEのドバイなど、新興都市もある。浜松はそれほどルーツがないので、海外の何かと提携するなどして（個性を作って）はどうか？ |
| 花澤 | 浜松固有のものとしては、東京、大阪、名古屋、京都の中間にあるという位置がある。定期的にバスツアーを行い、学生に一番元気な場所を見せながら、じっくり考えさせては？ |
| 寒竹 | 北九州と福岡は戦後人口が逆転した。静岡と浜松の関係はどうか？ |
| 富田 | 現在は浜松の方が多。私が子どものころ、静岡と浜松は同じくらいの人口だった。 |
| 根本 | 同じ工業都市でも、北九州など重厚長大産業のところは、GDPがのびていない。東海の製造業は新しい産業である。浜松の産業出荷額も増加したが、産業の質はどうか？（静岡に比べて劣っている）文化を逆転させたい。 |
| 川口 | シドニーが文化を求めてオペラハウスを作った。ランドマークとなっている。 |
| 寒竹 | 浜松は平らで広く、変化がないのが特徴だ。風が強い。 |
| 宮崎 | 静岡市は狭い。市街地がコンパクトなので、自転車が多い。 |
| 根本 | （浜松は）そこそこ飯が食べられるが、志が低い。 |
| 川口 | スズキがインドに進出したことも、浜松らしいのでは。 |
| 寒竹 | 浜松の人は良い服を着ない。暖かいので、コートもいらない。購買力が低い。ほこりっぽい（まちという印象がある）。 |
| 宮崎 | 静岡は車通勤ができない。（公共交通が多いので、私服で通勤する。）浜松は、（車通勤ができるので）作業服で通勤する。銀行などにも作業服で入る。ファッションセンスが育たない。 |
| 根本 | ドイツのルール工業地帯は、文化に転換している。エッセンに拠点をかまえ、ネットワーク化させている。製造業にルーツを置きながら、アートなどに展開しているので、事例として参考になる。（工業都市から）いきなりファッションにスイッチするのではなく、どこかに接点を持ちたい。 |
| 川口 | （大学が）音楽、ファッション（浴衣等）、デザイン等のコンクールを主催してはどうか？ |
| 根本 | 卒業生が楽器のリペアをする専門学校に進学した。フルートは静岡が世界一である。演奏でなく、楽器作りのコンペをしてはどうか？ヤマハは「つくる」にこだわって、手作りのラインを持っている。 |
| 川口 | 日本はソフトが弱い。ソフトがないとハードが文化的にレベルアップしない。 |
| 花澤 | 浜松は新しいものは取り入れるが、古いものをどんどん壊していく。「工場もえ」という言葉がある。見て楽しい、学生からの視点でまちに提案できるプラットフォームがあるとよい。 |
| 富田 | 見せる方の意識をかえる。 |
| 森 | ウェールズ人は、炭鉱に劣等感を持っていた。よく考えてみると、誇れる産業遺産であり、労働歌からコーラスを作った。恥ずかしかったものが誇りになっていく。 |
| 富田 | 耐震偽装問題などがあり、浜松ではお金の問題で、工場もなくなっていく。 |
| 花澤 | 大学が先行して、（見えない）ハードをイメージし、バーチャルで公開していく。 |
| 寒竹 | 浜松では、（街中で）産業らしきものが目に見えない。見れるポイントがない。知っている人しか分からない産業である。そこに人を行かせるには、顔になる産業遺産しかない。 |

| | |
|----|-------------------------------|
| 山本 | 産業は都田に行った。街中では浜松城の大手門の復元話がある。 |
|----|-------------------------------|

3 / 3

| | |
|----------------------------------|--|
| 寒竹 | 浜松城も（前に市役所が建っているため）見えない。 |
| 山本 | 浜松の建物も安い、住めればよい。美術館も作れない、土地がない。 |
| 森 | 過去の企画立案総合演習で、時々良いアイデアが出ている。2020年というテーマで学生のアイデアをくみ上げるとよい。 |
| 寒竹 | 浜松をテーマにした卒業制作や、特色を持ったカリキュラムがあるとよい。面的レベル（大きさ）では東京に負けてしまう。 |
| 川口 | 大学が企画の主催者になって、文化事業を行い、市民から公募をする。市役所などにスポンサーになってもらう。 |
| 寒竹 | OBの地元への愛着を活用していきたい。 |
| 森 | 地元の人から見ると、本学は女子学生が「おしゃれ」という感覚がある。 |
| 2 その他 | |
| 第3回研究会：1月10日（木）13:15～ 文芸大 306 教室 | |

出席者

メンバー：川口教授、根本教授、森教授、寒竹教授、花澤講師
 宮崎次長、山本（企画室）
 冨田、坂田（ワーキンググループ）

| | | | |
|---|---------------------------|--|---|
| 日 時 | 平成20年1月10日(木) 13:15~15:45 | 出席者 | 学長・研究会メンバー 10名 アドバイザー 3名 行政関係者 3名 |
| 会 場 | 静岡文化芸術大学 301、306 会議室 | | |
| 次 第 | | 備 考 | |
| 1 浜松市東街区概要説明 2 川勝学長からのお話 3 自由意見交換会 司会：川口（研究主査） | | 配布資料 ① 次第 ② 第1、2回会議の意見のまとめ ③ 「浜松市新拠点づくり」資料 ④ 東地区土地区画整理事業パンフレット | |
| 1 浜松市東街区概要説明 説明者：鈴木祥司氏（浜松市土地区画整理課、東土地区画整理事務所） 東地区の土地区画整理事業について、パワーポイントとパンフレット等により説明いただいた。 ・東地区の事業目的に「交流」があり、東第一地区にシビックコア地区（一団地の官公庁施設）、東第二地区に静岡文化芸術大学（教育文化ゾーン）などを拠点施設として位置づけ整備を行った。 ・文芸大の目標「開かれた大学」を踏まえ、「人や情報が交流する都心地区」において、地域との交流、国際交流、世代間交流を目指している。 ・平成14年度から市民協働の一環として東地区街づくり会議を設置した。ワークショップによる市民意見を反映した道路や公園整備を行っている。 ・区域内の3本の40m道路（車道10m、歩道30m）は、公共空間利活用制度により、イベント等による道路空間の利活用が可能となっている。 | | | |
| 2 川勝学長からのお話：川勝学長 ・全国でも例をみない規模となった東地区の区画整理は見事である。 ・大学設立当時、郊外の自然環境に包まれたキャンパスが良いとされている中で、本学を都市型大学とした点は、非常に先見性があった。若者と都市は一体でなくてはならない。 ・アクトと文芸大のある教育ゾーンとの間をどう活用するのかが、課題だ。交流という東地区の目標からは「技術・文化・芸術」それぞれの交流ゾーンが出てくると思う。 ・恒常的なにぎわい空間にするには、これをどう作るのか？大学の3つの開かれたコンセプト（地域、国際化、世代間）があるが、それぞれは東地区のどこで開かれるのか？ ・大学は夜閉まるので、ここには生活がない。文化芸術が生活と一体となっているコンセプト、それが「大学まち」だ。学生や先生が大学のそばに住み、大学と生活の建物が一体化している。職住一体。そのためには“residential requirement”例えば学生が東地区に1年間住む義務があるというようにする・・・など。そこに来れば生活スタイルが目に見える形で展示されている。 ・大学まちのイメージづくりには、現状は建物が虫食い状態に建っている。賑わいが寂しい、安全が確保されない。女子学生が夜歩くのを怖がっている。現在の文化交流ゾーンを10haあまりまで拡大し、渋谷、青山のように若者がいてアートがある（空間をつくりたい）。 ・そのために、（大学の中か外か区別がつかない）縁側空間を作り、アクトと大学の間で若者を育てる。800mしか離れていない場所にあるデザイン専門学校とすら交流していない。人はその（若者の）交流にひきつけられて出てくる。 ・学生は一度親元を離れる機会があったほうが良い。1階は店舗で、その上に学生が住む。学問の香りがし、若い女性がいて、若者がくる場所に、望めば住める環境が必要。 | | | |

3 自由意見交換会 (敬称略)

| | |
|-------|--|
| 花澤 | 大学まちのメリットは何か？オックスフォードなどの例は？ |
| 川勝 | <p>国内では、秋田空港のそばの国際教養大学。県立大で3年目、競争率（難易度）は東北大や北大より高い。（海外留学の義務付け、留学生とともに1年間の学生寮での生活を義務付けている。）</p> <p>また、立命館アジア太平洋大学（大分県別府）は学生のほぼ半数が数十カ国からの留学生。場所がよく、坂を下ると別府の温泉街。（県、市、学校法人立命館の公私協力により設立）</p> <p>オックスフォードでは、英国人学生が留学生に正しい英語を教える。英国人学生にとってもよい環境である。食べるものが安く、ファッションブル、音楽、デザインなど新しい潮流がある。</p> <p>文芸大なら、本物（の音楽）はアクトで、東地区はそのワークショップや学問研究の場とする。そうすれば静大の人などが来やすくなり、コンソシアムを組みやすくなる。</p> <p>学園通りにカフェや食事する場所がない。教職員は自分の席で弁当を食べたり、コンビニで昼食を買って研究室で食べている。開かれていない。</p> <p>馬込川沿い（西岸）は川沿いを歩けるので、ビオトープや公園化できるはず。</p> |
| 立入 | アクト通りが活性化していない、暗い。人を呼ぶには店が必要。飲食店をつくれればやるのではないか？「くるる」をもっと遅くまで走らせることもできるのか？ |
| 川口 | アクトと大学の間には市有地はありますか？ |
| 鈴木 祥司 | ほとんどない。市商工部では、店舗開設に税金を緩和する制度を作っている。 |
| 川口 | 7年前の大学開設時に比べれば、だいぶ店が増え、ましになってきた。アクト通りを整備すれば人が来ると思っていた。区画整理に精一杯で、ソフトまで考えられなかったのではないか？メインの通りはアクト通りなのに、まだ、通りに面して駐車場が多い。結婚式場正面は大学側を向いている。土地所有者は、みな様子を見ている。通りに面して店舗が建つかどうかは、住民にどの程度民意があるかによるだろう。 |
| 川勝 | 学園通りで卒業制作の展示はできるか？ |
| 寒竹 | 30mの歩道にしたのだから利活用が必要。道路に面する家への交渉は必要だろう。（区画整理の投資をした場所が）どうして戸建住宅になっているのか？ |
| 鈴木 祥司 | バブルがはじけた。地権者は様子見している。地区計画では、住民意向でマンション等を規制した。 |
| 川口 | 日本は地権者の意向が強い。研究の実現性を確保するため、役所の方にも研究会に参加してもらいたい。役所のコーディネートが必要である。 |
| 中津川英彦 | アクト通り沿いは地区計画で商業地の縛りがある。地主にとまどいがみられる。地区計画に法的強制力はない。学園通りでは商業性を強調できるかもしれない。30mの歩道は、面する家の了承があれば現状どのように利用してもよい。 |
| 川口 | イベントは短期間でも有効ではないか？ |
| 寒竹 | 管理の対応は？ |
| 鈴木 祥司 | 市都市政策課が窓口だが、公園、道路などそれぞれの課にも手続きが必要。 |
| 川口 | 固定資産税の軽減など、インセンティブはあるか？学園通り沿いに大学関連建物などに、税制の特例を設けてもらうことはできないか。 |
| 中津川英彦 | 中心市街地では、1階が商業施設の非木造建物に対して固定資産税軽減措置がある。この地区は様子眺めの傾向が強い。東第一地区はもともと商売エリアだが、第二地区は戸建宅地だったので、持ち家志向が強く、建物の共同化の方に向かわなかった。 |

| | |
|---|--|
| 寒竹 | 管理の対応は？ |
| 鈴木 祥司 | 都市政策課が窓口だが、公園、道路などそれぞれの課に手続きが必要。 |
| 富田 | 学生は東地区に住んでいない。学生が活動できる場を地区内につくれないか。公会堂などで学生の活動の突破口をすることから始めては？ |
| 坂田 | 学長の話で大学まちという考え方を分かりやすく説明してもらえた。ハードの建物の話だけでなく、ソフトの話もしたい。 |
| 川勝 | 学長は学期中、大学のそばに住む、スタッフもここに住み、学生と区別なくするとよい。スペシャルディストリクト…。 |
| 花澤 | 馬込川のコンビニ付近は親水空間整備されている。周辺整備の構想の突破口となるのではないかな？ |
| 鈴木 祥司 | ポイント的整備であるが、とっかかりとなるだろう。担当部署は、河川管理は県で、馬込川公園は市公園整備課である。 |
| 鈴木常務 | 大学まちとして、大学の知的人的資源による活性化が必要だ。学長が用いた「生活」という言葉が新鮮だった。本学学生1,500人は、消費者としては、小さい。学生の活動が発信されるようでありたい。学園どおりは横須賀の「ちいさなまちの文化展」も参考になる。それを起爆的に活用できたらよい。 |
| 宮崎 | 東2、13、14、15、16の歩道の可能性については、駅から学園どおりへの人の導きが大事だが、どうなっているか？ |
| 中津川英彦 | 特に民有地には（土地利用誘導についての）市から声をかけていない。建物ができていない所は、様子見している。 |
| 宮崎 | 大学南側に核がなければ人が通らないのではないかな？通りの両端に核がほしい。 |
| 川勝 | 東第二地区の活用が難しいことがわかった。第一地区と第二地区を結びつける公園や道路の活用が必要である。 |
| 山本 | 市からは、区画整理課だけでなく関連各課からもこの会議に出席してほしい。 |
| 川勝 | 学長研究費で会議を開催しているので、サポートをする。市にも是非協力してほしい。 |
| 4 その他 次回研究会：2月18日（月）18:00～ 文芸大306会議室 | |

出席者

メンバー：川勝学長、川口教授、森教授、寒竹教授、立入講師、花澤講師
宮崎次長、山本氏（企画室）
富田氏、坂田氏（ワーキンググループ）

アドバイザー：杉田副理事長、鈴木常務理事、上野副学長

行政関係者：鈴木祥司氏、中津川英彦氏（東土地区画整理事務所）、足立睦俊氏（浜松市区画整理課）

欠席 根本教授

| 第4回 | | 平成19年度 「2020年のSUAC」 調査研究会 議 事 要 録 | | 1 / 3 | |
|--|--|--------------------------------------|--|------------|-----|
| 日 時 | 平成20年2月18日(月) 18:15~20:15 | | 出席者 | 学長・研究会メンバー | 10名 |
| 会 場 | 静岡文化芸術大学 301、305 会議室 | | | アドバイザー | 2名 |
| | | | | 行政関係者 | 6名 |
| 次 第 | | | 備 考 | | |
| 1 浜松市の都心政策について 2 野口公園、馬込川公園について 3 自由意見交換会 4 その他 司会：川口（研究主査） | | | 配布資料 ① 次第 ② 第3回会議議事要録 ③ 「浜松市における中心市街地活性化の取り組み」資料 ④ 「野口公園&馬込川公園」資料 ⑤ 公園パンフレット2種類 | | |
| 1 浜松市の都心政策について あいさつ：川口次長（浜松市商工部） 説明者：内山氏（浜松市商工部都心政策課） 浜松市の都心政策について、パワーポイント資料を提示し、説明いただいた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第一次中心市街地活性化基本計画（平成10年度策定）で310haの計画を策定し、8つの施策の柱と市街地開発事業を実施してきた。 ・ 文芸大との関わりでは、商業活性化事業の調査協力、イベントポスターデザイン、空店舗活用事業への協力（現在検討中）、まちなかイベントへの参加協力、審議会等の委員に就任などがある。 ・ 10年前の計画であり、新市合併や政令市移行、老舗デパートの破綻などが考慮されていない。また、全国的にも類を見ない規模とスピードで郊外の大型商業施設（計20万㎡）の進出が進み、課題が残されている。 ・ 新中心市街地活性化基本計画（平成19年度認定）により、中心市街地の区域を絞り込み150haを対象とした計画を策定した。商業、居住、業務の3つの目標のもと67事業を推進する。既に大丸百貨店やビックカメラの進出が検討・調整されている。 | | | | | |
| 2 野口公園、馬込川公園について 説明者：塚本氏（浜松市公園緑部公園課） 野口公園と馬込川公園について、パワーポイント資料を提示し、説明いただいた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 両公園は東地区区画整理区域と中心市街地活性化区域内に計画された公園で、上位計画は浜松市緑の基本計画（現在新計画を策定中）。 ・ 馬込川公園は馬込川沿いの延長8km、45haの総合公園として計画され、東地区に1haが含まれている。土地区画整理事業の顔づくりを目指して、散策ができる公園とし、桜並木の整備が行われる。平成21年度完成の予定。 ・ 野口公園は1.1haの近隣公園で、防災公園としての機能を持つ。従前にあった貝殻すべり台の復元などが行われ、今年度整備が完了した。 ・ 野口公園は文芸大・東小学校との協働「野口公園プロジェクト」によるワークショップ等を経て整備された。デザイン学部院生による休憩スペースがデザインされ、設置されている。 | | | | | |
| 3 自由意見交換会（敬称略） | | | | | |
| 花澤 | 商業インキュベーター施設とは？ | | | | |
| 内山 | 新浜松駅1階の「UP ON」のことで、以前インキュベーターショップがあり、何年かトライしたが、うまくいかなかった。現在は収益的理由から一般店舗となっている。 | | | | |
| 川勝 | 公園の取り組みを聞いて、人命を担保する防災という観点も重要であると感じている。 新しい都心拠点、学生で賑わい、サテライトキャンパスにもできる教養文化ゾーンとしたい。また、まち全体を、野外博物館的に美術・芸術の入れ物として使いたい。学生から音楽やファッションを生かしたまちづくりプランが出されている。学生を教室からまちへ出し、まず東地区、そして浜松全体を若者で賑わう「大学まち」としたい。 | | | | |

| | |
|-------|--|
| 河原林 | 企画立案総合演習の授業で、学生2グループがこのプロジェクトに該当する案を提出した。仕組んだわけではないが、学年の異なる学生や先生と一緒に住む学生アパートの案で、用地選定やプラン、償却計画まで出してきた。 |
| 寒竹 | 空き店舗活用事業とは、どこで情報を得ればよいのか？ |
| 内山 | 市の商工部が窓口的役割を担っている。現在検討中で、商店街単位で話をしている状態。場所は鍛冶町や田町あたりである。来年、組織改革でできる商業政策課が担当する。 |
| 寒竹 | 商業者が学生のために、ある程度家賃を負担するなどして、商業だけでなく居住と研究の場となればよい。まち中のほうがやりやすいだろう。 |
| 内山 | 本当に人通りが多いところは難しい。少し少ないが良い場所を考えている。 |
| 川勝 | 香川県の直島は、岡山県から連絡線で20分の離島だが、世界で7つの訪れてみたい島となっている。多くの人が訪れている。浜松駅からすぐの場所なら、はるかに人が来やすいはず。 (ベネッセアートサイト直島：安藤忠雄の設計した美術館や宿泊施設があり、島の自然や文化を生かしたアートプロジェクトを行っている。) |
| 商工部次長 | 空き店舗活用事業は今は商業限定だが、芸術・文化面に配慮するため、意見を聞きたい。 |
| 川口 | P23. 都市再生緊急整備地域で、学生など大学関連施設を新設する際に、思い切った固定資産税等の軽減措置は考えられないか？ |
| 内山 | P28. で既に優遇税制措置はあるが、学生居住という視点は今のところない。 |
| 川勝 | 是非盛り込んで欲しい。東京駅前のビルに20大学が入居している。夜学は社会人が来ている。浜松には最高の空間に大学があるので、(まちなかに)サテライトキャンパスをつくり、外国人留学生などを受け入れたい。外国人学生が安心して住めて、夜も賑わう場所を作りたい。 |
| 寒竹 | P20 東地区と西側の賑わいをつなぐには、ロータリーが壁となっている。再整備の計画はないのか？鍛冶町が東地区に入り込んでくるようになればよい。 |
| 内山 | 交通政策課で取り組んでいる。広小路やロータリーのために東西や南北の連携が良くないことは指摘されている。3月6日に都心未来創造会議を立ち上げ、根本先生に入っただけ予定である。アクトと東、西をつなぐのが一番の問題である。 |
| 寒竹 | P6 で浜松は城が感じられない。駅-大学-浜松城のトライアングルを、まちのシンボルとして考えてほしい。 |
| 川勝 | 浜松城公園-シビックコア-文芸大を結ぶ歩行空間を考えて欲しい。馬込川も植栽してほしい。寒河江では、運河の水辺空間を地元住民が競い合って管理している。大学から駅までの1kmのうち半分を文芸大で管理すれば、学生も訪れやすい。その道からお城が見えるような動線を考えて欲しい。市民がコミットできる空間としてほしい。 |
| 公園課次長 | 浜松城公園では、現在の体育館を撤去した跡地を当面のメインエントランスとし、芝生広場にする予定である。公園全体の整備については、小学校統廃合などもあり明確化していない。市役所西館を撤去し、南エントランスとして、今後10年程度を目標に、天守櫓門の復元に取り掛かろうとしている。天守閣は、天守台の広さに対して天守閣が小さいのはおかしいといわれるので、作りなおしの話も出ている。ソフトとして家康を宣伝材料とし、出世城神社を作り、家康の散歩道などをアピールして、浜松城公園の付加価値を高めていきたい。 馬込川公園は、にこにこプロジェクトで暫定的にひまわりを植える取り組みをしている。管理がネックであるが、公園愛護会をつくり1㎡20円で管理をしてもらうことなどを考えている。 |
| 川口 | 現在、浜松城公園は公園らしくない。市役所が、アクトの空オフィスやアクト東側などに移転すれば、対市外に対しても大学にとってよい。旭地区の一角に役所機能を入れたらどうか？ |

| | |
|----|------------------------------------|
| 内山 | アクトのオフィスはほぼ満杯である。進出企業のステイタスとなっている。 |
|----|------------------------------------|

3 / 3

| | |
|-----------------------------------|---|
| 公園課次長 | 以前管財課にいたときに、庁舎建設基本構想委員会を作ったが、合併のためとりやめになった。 |
| 内山 | 法雲寺付近の街区が空いているが、まちの顔なのでそれなりの業務施設を作りたいという地主の意向がある。 |
| 森 | 外国人を浜松と呼ぶと、お城の見えるホテルを紹介する。公園が整備されれば外国人の滞在に魅力となる。城から大学への動線となる六間道路も整備してほしい。アイホールなど男女共同参画に関する施設を中心にもってくる話はあるか？現在NPO関係の施設は鴨江にあるが、大学のそばにあると拠点になり、活性化に役立つと思う。 |
| 内山 | 今のところはない。浜松のNPO関係施設は、静岡に比べると、顔が見えない。 |
| 商工次長 | 浜松にNPO関係施設は、市レベルのものしかない。活動の場としては、県総合庁舎も空いてきたし、まちづくりセンターも多くの団体に使われている。 |
| 川口 | 浜松美術館を楽器博物館の隣に持ってきて、科学館と一緒にミュージアム・ゾーンを形成すれば、市全体の文化芸術にとってもよいのでは？東地区を特別地区に指定し、ギャラリーなど文化・芸術関連施設への特別税制（負担軽減）は考えられないか？ |
| 内山 | 東地区も機能誘導の時期にきている。美術館は、平成20年度に基本構想を作成する話をしている。 |
| 立入 | 空き店舗活用として、サテライトスペースを大学に貸してもらえないか？企画立案総合演習など授業で使えるのではないか？中心部に昼間、若者が少ない。 |
| 内山 | 京都には駅前に大学センターがあり、とてもよい。講演会などもしている。 |
| 立入 | 社会人聴講生も、(サテライトに)移動して勉強したらよい。すぐに実行できる。 |
| 花澤 | カフェやたまり場があって、先生が週1回行くような場所、先生方の良い趣味などを市民に伝える場があるととてもよい。学生が「浜松の中に驚きがない」と言う。浜松はイメージがどんどん流れていく。将来イメージを出していただけるとよい。 |
| 河原林 | 浜松銀行協会で絵本展をしたら、二千くらいが来場した。クリエイターが300人以上もいる地方都市はめずらしい。彼らは企業に分散しているので、集まることのできるサロン・スタジオなど、クリエイティブな人が集まるブロックがあるとよい。アーティストの卵や文芸大出たての若者が集まるような場所がほしい。 |
| 商工次長 | 文芸大が都心にあることは大事である。交流を活発にしていきたい。 |
| 川勝 | もっと都心に触手をのばすようにしてほしい。大阪はナレッジキャンパスを目指している。文芸大を拠点として、まちの中心部が全体として都心大学になればよい。 |
| 川口 | 来年度から、役所も正式に研究会に参加してほしい。おしゃれな研究会名を募集する。 |
| 商工次長 | 事務局の山本氏と相談して、参加部署を検討したい。 |
| 杉田 | 勝手に大学がプランニングしていることだが、市の職員の方と密接な話ができよかった。 |
| 4 その他 次回研究会：3月25日（火）18:00～ 文芸大 | |

出席者

メンバー：川勝学長、川口教授、森教授、寒竹教授、立入講師、花澤講師
宮崎次長、山本氏（企画室）
富田氏、坂田氏（ワーキンググループ）

アドバイザー：杉田副理事長、河原林教授

行政関係者：内山氏（浜松市商工部都心政策課）、
塚本氏（浜松市公園緑地部公園課）

鈴木祥司氏、足立睦俊氏（浜松市区画整理課）

欠席 根本教授

| 第5回 | | 平成19年度 「2020年のSUAC」 調査研究会 議 事 要 録 | | 1 / 3 | |
|--|--|--------------------------------------|---|----------------------------|--|
| 日 時 | 平成20年3月25日(火) 18:00~20:00 | | 出席者 | 学長・研究会メンバー 8名 アドバイザー 3名 | |
| 会 場 | 静岡文化芸術大学 305 会議室 | | | | |
| 次 第 | | | 備 考 | | |
| 1 平成19年度の経過報告 2 根本先生より 3 平成20年度以降の名称の検討 4 自由討議 (今後の研究会の方針等) 5 その他 司会：川口 (研究主査) | | | 配布資料 ① 次第 ② 第4回会議議事要録 ③ 平成19年度研究会報告 ④ 2020年のSUACメモ (根本先生資料) | | |
| 1 平成19年度の経過報告 説明者：富田氏 ・資料「平成19年度研究会報告」 | | | | | |
| 2 根本先生より 資料「2020年のSUACメモ」をもとに、これまでの討議を補強する内容を説明いただいた。 1. 「まちなか」と大学との連携 (1) ワールドカフェ・・・商工会議所の女性会が、NPO+静大+文芸大の運営を検討中 (2) 社会人大学院・・・本学の社会人聴講生の盛況ぶりからニーズが高いのでは？ (3) フリーマーケット・・・学生によるハンドクラフト、体育館跡地のイベントスペース化等 (4) 東街区について・・・まちのランドビジョンの欠落、イメージを共有できるものが必要 2. 地元企業等との連携 (1) ミニ・ミニ・カー・・・羽田准教授が関わっている。法制度の壁があるが、企業との連携で実現できればよい。ヨーロッパでは老人などが低速(15km/h以下)で使っているのを見る。 (2) ポローニャ関連・・・世界の絵本展は林教授の関わりがある。 3. その他 ・大学の歌、大学のキャラクター ・モザイクカルチャーとの関連 ほか | | | | | |
| 3 平成20年度以降の名称の検討 | | | | | |
| 4 自由討議 (今後の研究会の方針等) (敬称略) | | | | | |
| 杉田 | ミニミニカーは、高齢化社会にあったらよいと思うが、普通の車の邪魔にならないか？ | | | | |
| 根本 | 日本ではまだ認知されていない。道路のどこを走ればよいかなど、法的に未定義の存在である。社会実験で専用レーンを設けたらどうか。 | | | | |
| 杉田 | 日本の道路は住み分けができていない。将来的にビジネスになるかも？ | | | | |
| 鈴木 | 浜松のにぎわいに向けて、本学がどう変貌していくのか？絵本をキーワードにしたイベントができないか？地元ひくまの出版という特徴ある出版社もある。本学の学生が始めた絵本喫茶は市民の支持の高いイベントである。絵本喫茶の読み聞かせは子育て世代にとっても反響が高い。例えば世界の手作り絵本コンテストを本学が主催して行う。 | | | | |
| 杉田 | 審査員になってもらうなど、ミヒャエル・ゾーヴァさんと呼ばないか。 | | | | |
| 上野 | 大学がひくまの出版と組んでスズキ、ヤマハなどと一緒に国際コンペなどを行ってはどうか。大阪児童館が日産と組んで、童話コンテストを20年くらい行っている。情報発信力が高い。 | | | | |
| 川口 | 児童書だけでない古本市を、学園通りなどで開く。 | | | | |

| | |
|----|--|
| 上野 | <p>モザイカルチャーは、アクト通りを第二会場として市民や企業の作品を展示する予定。中区区長から、今秋アクト通りで先行展示をするので、文芸大への協力依頼が来ている。</p> <p>2004年花博では、文芸大から常時20人ぐらいが参加していた。デザイン系の大学、専門学校、高校が参加してほしい。</p> |
| 森 | <p>地元出身の絵本作家スズキコージさんの協力もあるとよい。国内の仏教系NPOが絵本などを翻訳してテープにして送る活動をしている。</p> |
| 寒竹 | <p>中心市街地は必要なのか？これまでのアイディアは、浜松でなくても、どこでも出来る事だ。まちなかとの連携は、周囲（例えば、天竜川やブラジル文化）との連携である。浜松が主語になった内容でなくてはならない。SUACをさかさまにしてCAUS（カウス）計画はどうか。静岡の人はのぞみ止まらないのに何とも思わない。浜松の具体的な特徴を出しつつ、議論しなくては…。海は近いけれど使えない。</p> |
| 川口 | <p>東北には特徴的な東北学があるが、資源が少ないから絞れる。静岡は豊かなので絞れない。これだけをやれば…ではなく、色々なメニューがあると良い。</p> |
| 川勝 | <p>寒竹先生の問いかけには鈍感になってはならない。何度も問いかける必要がある。ミニミニカーは誰が見ても面白いと思う。大学をアピールする象徴とするための課題である。</p> <p>学生が発案したという点で、絵本喫茶もすばらしい。絵本を読むこと（サービス）を売っている。富山の花の銀行は、花作りの人材、ノウハウをキープしている。</p> <p>のみの市のコベントガーデンは、庶民のイメージがある。それをどう定着させるかが問題である。東地区も東に行くほどだんだん暗くなる。（駅から大学への動線は）アクト通りか馬込川沿いになる。</p> <p>研究会は来年も続けるので、名称はこの場で合意したい。（内容は）雲をつかむような話である。大学の存在を無視しては考えられないが、学生、青年、高校生を念頭において、我々が汗をかく、SUACはお手伝い役（に徹したい。）</p> <p>スチューデントタウンとまちなかが一体となったようなまちは、日本にはない。本学以外の若者、社会人も引き付けられてくる。中区の申出（モザイカルチャーへの協力）は是非受けるべきだ。</p> |
| 川口 | <p>研究会名は、SUACが頭にないほうが良いということか。まちなかスチューデントタウン計画など。</p> |
| 寒竹 | <p>スチューデントとは若い人だけなのか？文化を体に浴びたい人とか？</p> |
| 川勝 | <p>東地区の文教地区で、若者がいて、文化の香りがあり、パワーが生まれる…。浜松には何もない、という市民に対して、私たちが作ろう！（というイメージ）。例えば、碧風祭の絵本喫茶から始まりましたというストーリーを作る。ミニミニカークラブを作る。</p> |
| 寒竹 | <p>何もないから、やрмаいかなのか。だから、何でもやってみるということか。</p> |
| 根本 | <p>スチューデントというより、スタジオ、舞台、文化のオンステージという意味か？</p> |
| 鈴木 | <p>舞台、ステージという言葉は、色々な人たち（を連想する）。文化創造ステージ計画はどうか？</p> |
| 川勝 | <p>場所はあえてつけない。「芸術文化夢舞台プロジェクト」とする。</p> |
| 川口 | <p>市役所へは、学長名で参加を依頼する。会議は公開するので、来たい先生に来てもらうオープンな会議とする。</p> |
| 鈴木 | <p>杉田先生も引き続き研究会に参加してもらいたい。</p> |
| 上野 | <p>ミニミニカーの羽田先生のねらいは、特区申請にあるので、ぜひ市にも参加してほしい。</p> |

| | |
|-----------------------------------|--|
| 川勝 | モザイカルチャーの時に、まちなかをミニミニカーが走っているとよい。大学の歌、キャラクターは良いと思う。コンクールや表彰ができるとうよい。ファッションも考えている。本学卒業生の高畑さんと大学のガウンを作りたいという話をした。そこからファッションが生まれる。人にやさしい、ユニバーサルデザインを念頭におき、老人のためにも、若者がいる場所を作りたい。 |
| 5 その他 次回研究会：4月24日（木）18:00～ 文芸大 | |

出席者 メンバー：川勝学長、川口教授、森教授、寒竹教授、根本教授
山本氏（企画室） 富田氏、坂田氏（ワーキンググループ）
アドバイザー：杉田副理事長、鈴木常務理事、上野副学長
欠席 立入講師、花澤講師、宮崎次長